

新4K8K衛星放送に関する実験試験局

免許人：

衛星放送事業者

実験・試験の目的：

平成30年12月から開始される新4K8K衛星放送については、要求される伝送容量とサービス時間率に応じた適切な伝送方式（変調方式、誤り訂正符号化率）の組み合わせを選択することが求められており、その指針となる所要C/N等を明らかにするとともに、最適な伝送パラメータを明らかにすることを目的とします。

周波数帯、帯域幅、出力：

衛星側：12GHz帯 34.5MHz 120W

地球側：17GHz帯 34.5MHz 300W

実験試験局の電波利用範囲等：

衛星側：東経110度

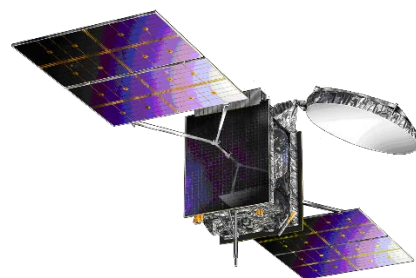
地球側：全国

実験・試験の概要

地球局相当実験試験局及び人工衛星局相当実験試験局を用い、衛星伝送実験として、占有帯域幅測定、BER特性測定、映像・音声による総合特性評価、総合遅延時間測定等を実施した。また、展示会場等において放送波の波形等を展示するなど、8K映像・音声の衛星伝送のデモを実施した。



(地球側実験試験局)



(衛星側実験試験局)

実験試験局実施による成果やその後の状況（又は今後の計画）：

本件実験試験局による結果が、平成28年から開始された4K・8K衛星放送の試験放送や平成30年から開始される「新4K8K衛星放送」における伝送方式の選択に反映された。